

背景

- 高岡市街地は過去から多くの浸水被害に見舞われ、近年、平成24年7月豪雨時も床上179戸、床下348戸の浸水被害が発生
 - 近年、局地的豪雨が顕在化し、甚大な水害が多発
- 富山県での時間雨量50mm以上の観測回数が増加している。

〔富山県内15気象台観測所データより〕
〔S58～H4年 1.1回/年 ⇒ H15～H24年 3.4回/年〕

○市街地の拡大により、流出量が増大 → 浸水危険度が増大

治水・浸水対策については、これまで鋭意進めてきているところであるが、いまだ十分な整備水準にあるとは言えない。

- ・地久子川河川整備進捗率(計画1/50) : 51%(H24末)
- ・住吉ポンプ場改修事業 : 平成25年度着手

市街地の拡大により、雨水の貯留・浸透機能を発揮する田畑が減少している。

- ・市街化区域内の田畑の割合 19.2%(S62) → 12.1%(H19)

高岡市街地の浸水被害



高岡市の取り組み

頻発する局地的豪雨によるより早急な治水対策が急務

総合的な治水対策について、関係部局からなる高岡市浸水対策連絡協議会で検討

高岡市浸水対策連絡協議会(H24.11.～)

組織	部局
県関係	土木部河川課・都市計画課
	農林水産部農村整備課
	知事政策局防災・危機管理課
	高岡土木センター、高岡農林振興センター
市関係	総務部総務課危機管理室
	産業振興部農地林務課
	都市整備部下水道課
	建設部土木維持課

- 河川・下水道整備における相互連携検討
- 流域対策の物理的な効果の検討、評価
(雨水貯留槽、水田貯留等)
- 総合的な治水対策について、様々な視点で検討・評価
⇒「高岡市緊急浸水対策行動計画」を検討し、策定

今後の取組

- 緊急浸水対策行動計画に基づき、個別対策について各施設管理者が整備を推進
- 流域対策の個別施設等の整備に向けた関係機関との具体的協議を開始
- ソフト対策を含めた被害軽減対策の実施に向けた支援